



独立行政法人 造幣局

JAPAN MINT

－ モノづくりに関わる仕事の魅力 －



造幣局について

- 造幣局は財務省所管の独立行政法人（行政執行法人）として、国の関与が不可欠な貨幣の製造等の業務を、民間的手法を用いて行っています。
- 貨幣製造業務を中心として、勲章・金属工芸品の製造、貨幣セットの販売、貴金属製品の品位証明などの業務を行っており、一般の行政官庁とは異なり「モノづくり」を行っているのが特徴です。

貨幣の製造

1円から500円までの6種類の通常貨幣、国家的な事業を記念して発行される記念貨幣を製造しています。



勲章・金属工芸品の製造

国家又は公共に対し功労のある方等に授与される勲章・褒章を製造しています。また、貨幣製造技術の維持・向上の為、金属工芸品を製造しています。



貨幣セット等の販売

未使用の貨幣をケースに収めた貨幣セットや記念貨幣を販売しています。



貴金属製品の品位証明

公的な第三者として、貴金属製品の製造又は販売をしている事業者からの依頼に応じて、貴金属製品の品位試験を行い、証明記号を打刻してその品位を証明しています。



造幣局の所在地・職員数

《職員数》

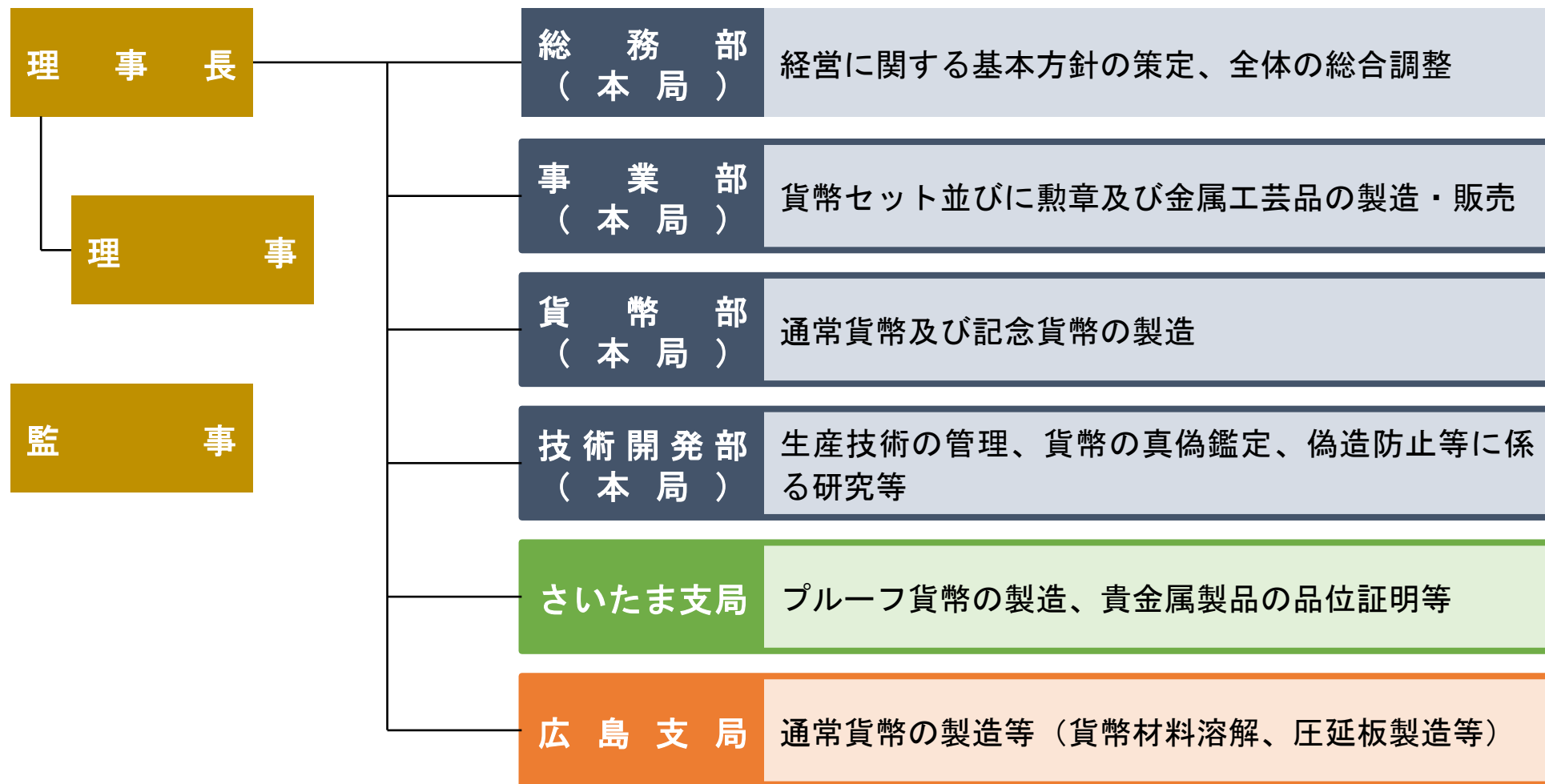
令和8年4月1日時点 858人

一般職 353人（事務職員：国家公務員試験合格者からの採用）
工芸職 12人（貨幣等の図案の作成を行う職員：選考採用）
技能職 493人（工場で製造作業を行う職員：選考採用）



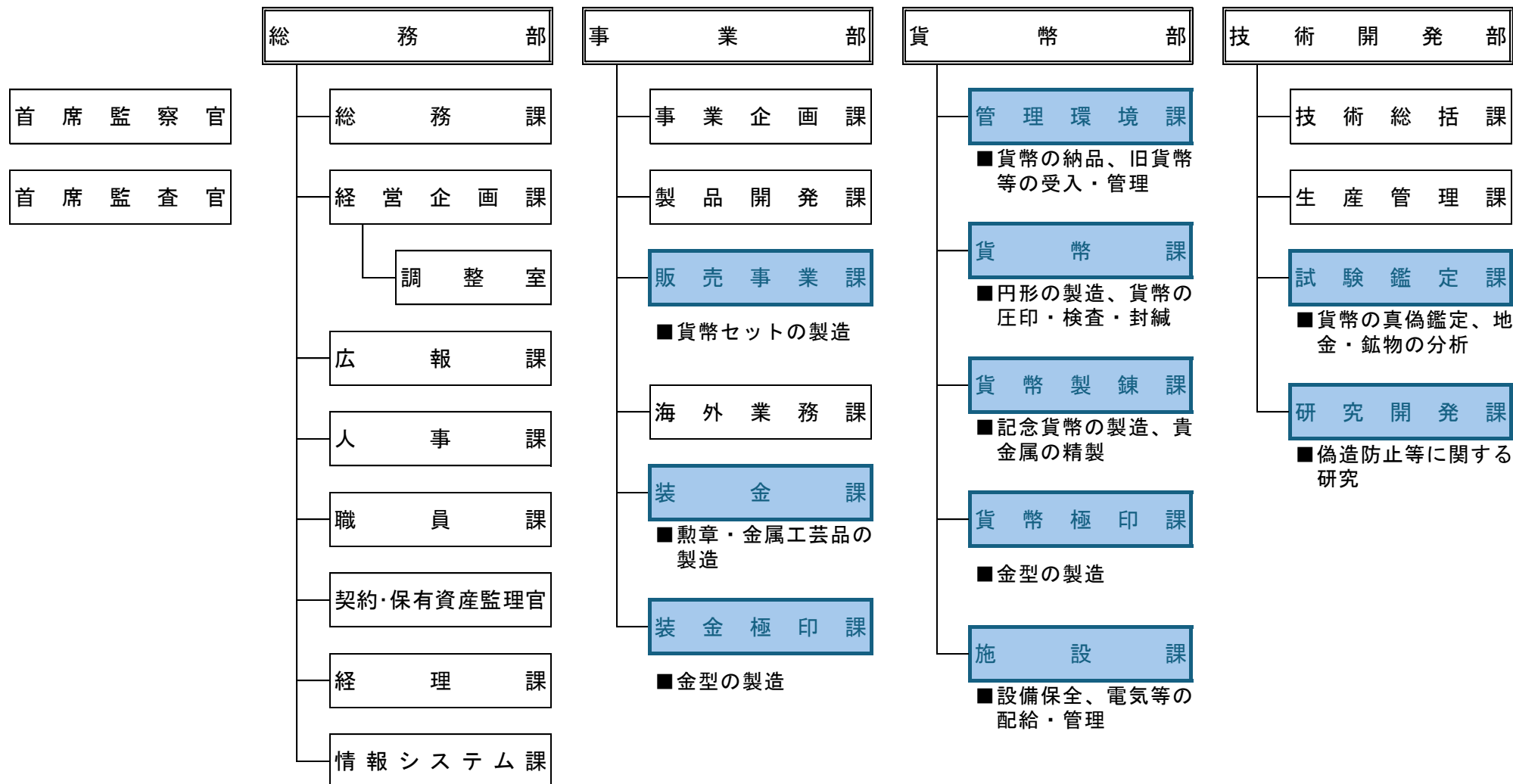
造幣局の組織

(令和8年4月1日現在)



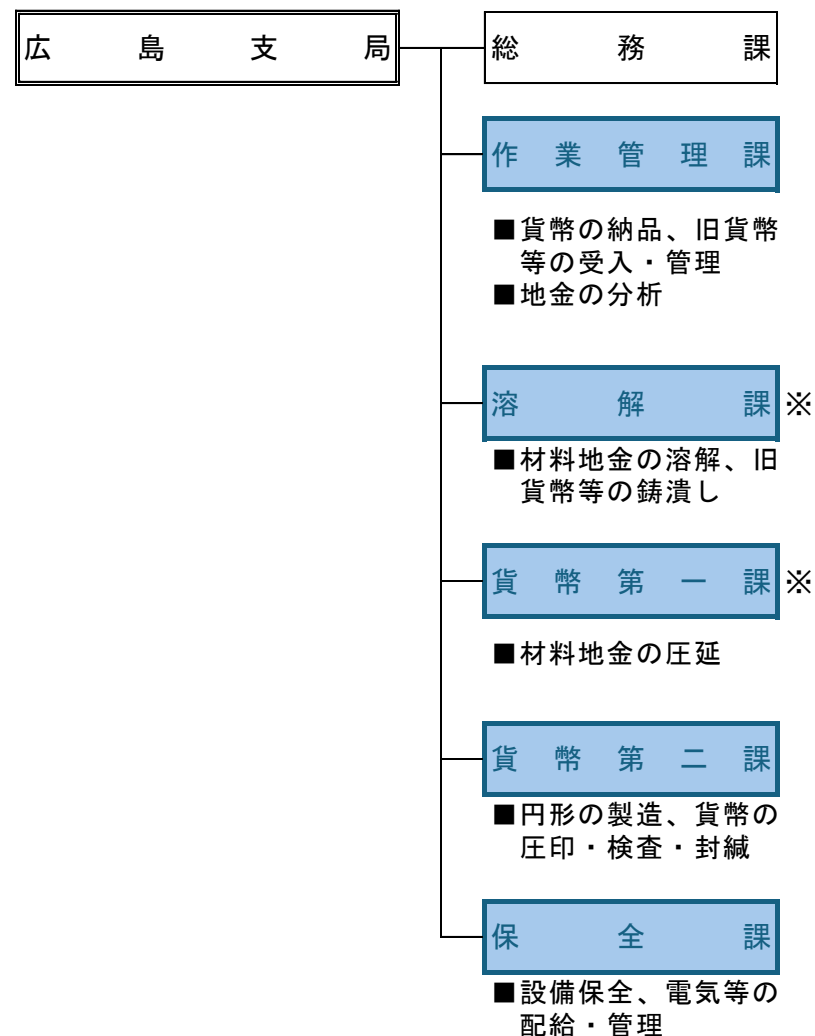
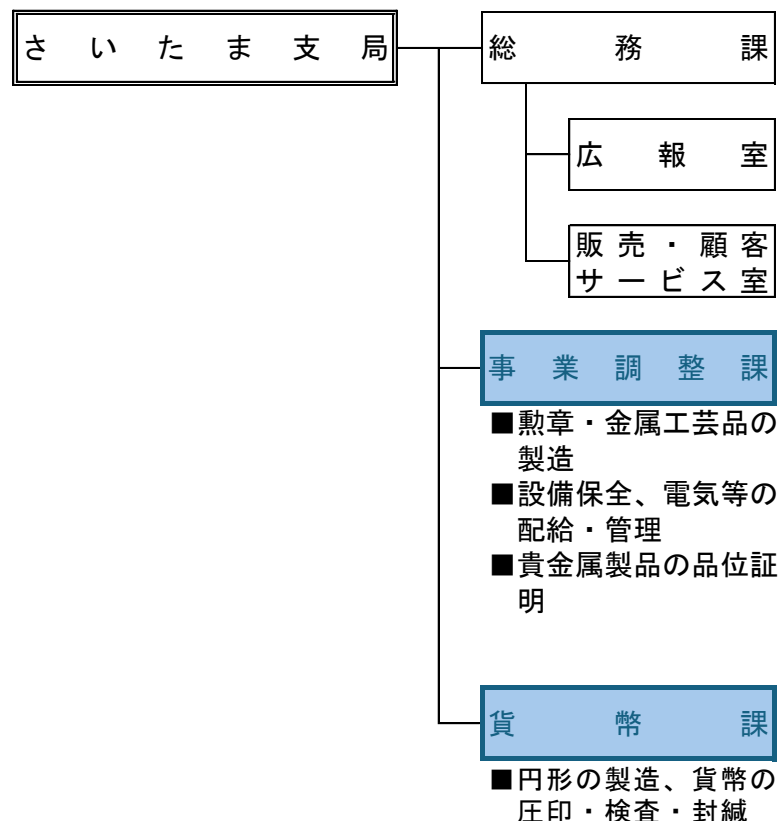
本局の組織

(令和8年4月1日現在)



さいたま支局・広島支局の組織

(令和8年4月1日現在)



※ 溶解課及び貨幣第一課は2交替勤務あり。

貨幣の製造

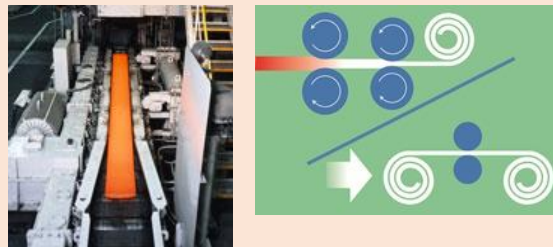
1. 溶解

- 銅・ニッケルなどの貨幣材料を電気炉で溶かし、連続鑄造装置で鑄塊をつくります。



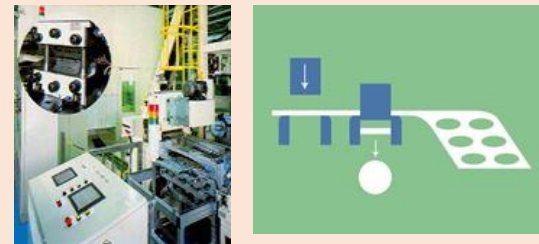
2. 熱間圧延・冷間圧延

- 鑄塊を均熱炉で加熱し、鑄塊が延びやすい高温の間に所定の厚さに圧延します。（熱間圧延）
- 常温で粗圧延、仕上圧延と貨幣の厚みにまで仕上げて巻き取ります。（冷間圧延）



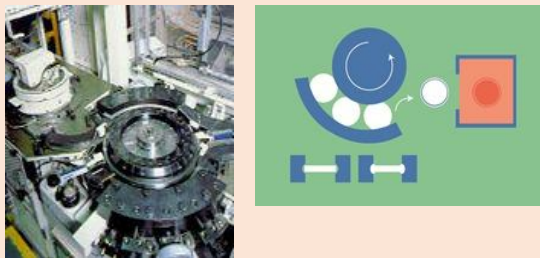
3. 圧穿（あっせん）

- 貨幣の厚みに仕上がった圧延板を貨幣の形に打ち抜きます。造幣局ではこれを円形（えんぎょう）と呼んでいます。



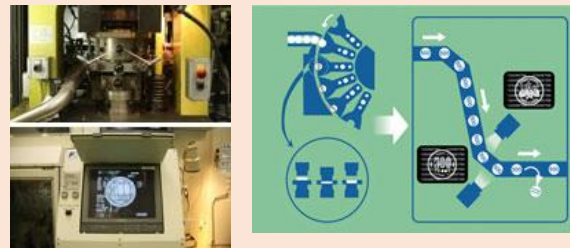
4. 圧縁

- 貨幣の模様を出しやすくするため、円形の周囲に縁をつけます。圧縁の後、この円形を加熱してやわらかくします。



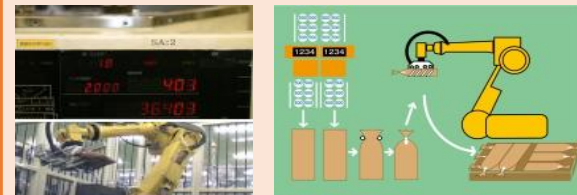
5. 圧印・検査

- 表・裏の模様、ギザを同時につけた後、貨幣の模様を検査し、キズのある貨幣など不合格品を除きます。



6. 計数・袋詰め

- 合格した貨幣は厳重に計数し、袋詰めします。



貨幣の製造工程(1)

広島支局（溶解～圧延作業）



（本局へ供給）



加熱



鑄塊製造



圧延



貨幣の製造工程(2)

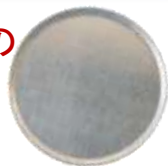
本局・広島支局（圧穿～圧印・検査作業）



模様をつける
ための金型を
取付けて圧印



圧延板から貨幣の
形に打ち抜き、
縁を付ける



圧印・検査



（品質や異常等を確認）



検査合格



袋詰め

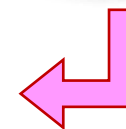
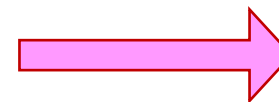


日本銀行へ

さいたま支局（プルーフ貨幣製造）



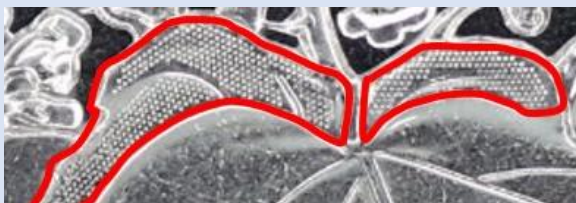
鏡面仕上げの美しい
プルーフ貨幣が完成



組込み

500円貨幣の偽造防止技術

微細点



貨幣模様の中央部（桐部）に微細な穴加工を行った微細点を施しています。

微細線



上下文字部「日本国」「五百円」の周りに扇状に髪の毛より細い微細な線模様を施しています。

潜像



貨幣を見る角度による反射光の明暗の差によって起こる現象を応用したものです。

異形斜めギザ



貨幣側面のギザを斜めにすることで偽造抵抗力が向上し（斜めギザは旧500円ニッケル黄銅貨幣から採用）、現在は偽造抵抗力を更に高めるため、斜めギザの一部に形の違うギザを入れ、視認性も向上させています。

微細文字



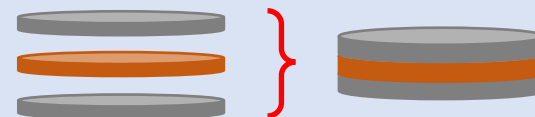
貨幣表面の縁に「JAPAN」（上下2か所）、「500 YEN」（左右2か所）の微細文字を施しています。

バイカラー



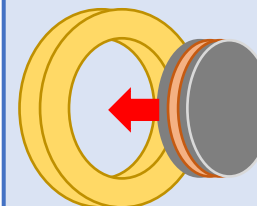
貨幣の正面から見て、内側と外側で材質が異なり、色の変化があることから、バイ（2）カラー（色）といわれます。

クラッド



異なる金属を層に重ね、サンドイッチ状にした素材をクラッドといいます。

バイカラー・クラッド



外側のリングに、内側のクラッドをはめた複雑な構造によって、偽造防止効果は非常に高いものとなります。

勲章・金属工芸品の製造

勲章・褒章

国家から授与される栄誉を表象する勲章・褒章は、美麗・尊厳・品格を兼ね備えていることが要求されるため、熟練した職員の手により、精巧な技術と細心の注意を払って製造されます。



大勲位菊花章
頸飾



大勲位菊花大綬章
(正章)

桐花大綬章
(正章)

旭日大綬章
(正章)

宝冠大綬章
(正章)

文化勲章

瑞宝大綬章
(正章)

褒章

金属工芸品

貨幣製造技術の維持・向上のため、メダルや章牌など、様々な金属工芸品を製造しています。



国民栄誉賞



オリンピック入賞メダル
(長野五輪)



七宝章牌



桜の通り抜けメダル

勲章の製造工程

1. 極印（金型）

- N C彫刻機で勲章の模様を彫り極印を作ります。そして極印の模様様を鮮明にするために修正します。



2. 圧写

- 圧写機に極印を取り付け、銀材料板に勲章の模様をプレスし、材料を抜き型で勲章の形に打ちます。



3. 切り抜き

- 精密成形機、N C彫刻機で、部品の形に切り抜きます。



4. ヤスリ

- ヤスリで形を整えます。



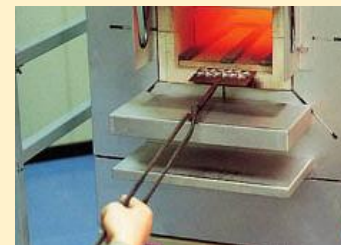
5. 七宝盛り付け

- 七宝が入る部分に「ゆう薬」を盛り付けます。



6. 七宝焼き付け

- 電気炉に入れて「ゆう薬」を焼き付けます。



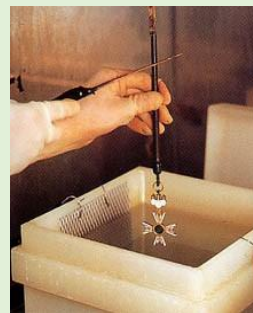
7. 羽布

- 羽布（ばふ）で研磨して光沢を出します。



8. メッキ

- 必要な部分に金メッキをします。



9. 組立

- 部品を組立てて完成します。



職員が持つ高度な技能（匠の技）

貨幣極印の金型の修正



修正後

実体顕微鏡と「きさげ」を用い、複製困難なまで鮮明で美しい模様に仕上げ、偽造防止にも貢献。



透かし彫り



約3cm



糸鋸を用い、金属をくりぬいて紋様を表す技法。
（高位の勲章に使用）

七宝の両面焼き



白色釉薬を表裏両面に均一に盛り上げる高度な技法。



勲章や極印金型の製造以外にも、

- ・ 貨幣製造（鋳塊や圧延板製造等）、
- ・ 機械設備の修繕保守、
- ・ 機械部品や治具等の製作、
- ・ 貴金属の品位分析

等、各部署の技能職職員は、高度な技能を活かして業務を行っています。

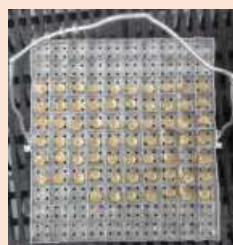
貴金属製品の品位証明

- 貴金属製品の製造・販売を行っている事業者からの依頼に応じて、貴金属製品の品位試験を行い、この試験に合格したものには、証明記号を打刻してその品位を証明しています。この証明記号を通称「ホールマーク」といい、貴金属製品の取引の安定と消費者保護に貢献しています。

1. 分析・品位試験

- 製造業者等より依頼を受けた貴金属製品から分析試料を採取し、金、白金等それぞれの地金の種類に合った方法で分析し、製品に含まれる貴金属の品位を測定。

金分析



《灰吹き法》
金合金を溶解し、不純物を取り除き、溶解前後の重量差で品位を測定

白金分析



《ICP分析》
白金合金を王水で溶かしICP分析装置で品位を測定

2. ホールマークの打刻

- 分析の結果、品位試験に合格した製品に「ホールマーク」を打刻。

手打ち



レーザーマーカ



ホールマーク



職員の受賞概要（外部表彰）

- 造幣局の技能職職員が受賞した主な外部機関の表彰は以下のとおりです。
- 長きにわたって積み重ねた日々の努力・向上心並びに上司や先輩の指導及び周囲のサポートにより培われた技能や成果が、高く評価されたものと言えます。

主な外部機関の表彰

- 人事院総裁賞
- 卓越した技能者表彰（現代の名工）【厚生労働省】
- 大阪府優秀技能者表彰（なにわの名工）
- 大阪府青年優秀技能者表彰（なにわの名工若葉賞）
- 彩の国優秀技能者表彰（埼玉の名工）
- 広島県優秀技能者表彰
- 安全優良職長厚生労働大臣顕彰
- 文部科学大臣表彰（創意工夫功労者賞）
- 技能検定成績優秀者表彰
- 日本分析化学会有功賞
- 日本金属学会研究技能功労賞
- 表面技術協会技術功労賞
- 軽金属学会高橋記念賞
- 優良クレーン運転士等表彰



研修・資格取得

- 造幣局では、職場や職員のニーズに合った様々な研修を実施しています。内部研修の他、専門的知識や技能の習得を図ることを目的として、外部機関の研修や講習を受講する機会も設けています。また、製造作業に関する資格取得の支援も行っています。

新規採用職員研修

- 造幣局の業務についての基本的な内容や、仕事を行う上で求められる行動と責任について学びます。また、研修期間中、実際に製造現場における業務を知っていただくことを目的として、本・支局の現場研修を実施しています。
- 採用後約2か月間の新規採用職員研修を修了した後、各職場に配属となります。

【主なカリキュラム】

- 業務についての基礎知識
- ビジネスマナー
- 現場研修

技能職員3年次研修

- 採用から3年度目に該当する技能職係員に、必要な基本的知識を付与するとともに、人格の形成を図るための研修です。
- 対人関係の力を高めるためのコミュニケーション・プレゼンテーションの研修や、安全衛生の意識向上のための研修を実施します。

【主なカリキュラム】

- 対人関係力スキルアップ
- 安全衛生・リスクアセスメント
- モノづくりレベルアップ

中堅技能職員研修

- 勤続10年以上の技能職職員に中堅職員としての役割を認識させるとともに、当該職における必要な知識及び技術を修得させ、その資質の向上を図るための研修です。
- 中堅職員の立場と役割について再認識しモチベーションを向上させる研修や、職場で後輩を指導する際のコーチングの研修、リスクアセスメント等安全衛生についての意識を強める研修を実施します。

【主なカリキュラム】

- コミュニケーション
- 安全衛生・リスクアセスメント
- メンタルヘルス

資格

- 技術管理に関する知識や作業に必要な資格を習得するため、外部の講習に参加したり資格試験を受験したりする機会があります。製造作業に関する資格の例として、以下のものがあります。

◇運転技能講習

◇フルハーネス型墜落制止用器具特別教育講習

◇機械保全技能士

◇玉掛け技能講習

◇はい作業主任者技能講習

◇めっき技能士

採用関係情報①

職員の身分

- 法令の定めにより、造幣局職員の身分は、国家公務員とされています。

給与

- 造幣局では内規として給与規程を定めており、これに基づいて職員の給与が支給されます。

【初任給】

令和7年度実績 215,575円
(大阪市(本局)で勤務の場合)

- この他にも扶養手当・通勤手当等が支給されます。
- 年2回賞与(期末手当、奨励手当)が支給されます。

勤務時間、休日休暇、残業

◆勤務時間

【本局・さいたま支局】

午前8時～午後4時30分(7時間45分勤務、休憩時間は45分)

【広島支局】

午前8時30分～午後5時(7時間45分勤務、休憩時間は45分)

<2交替勤務の部署>早番:午前7時30分～午後3時45分

遅番:午後3時15分～午後11時30分

◆休日

- 土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始が休日となります。なお、作業状況によっては休日出勤もあります。

◆休暇

- 有給休暇としては、年に20日(4月1日採用の場合は15日、残日数は20日を限度として繰越可)の年次休暇、病気休暇、特別休暇(夏季、結婚、出産、子の看護、ボランティア、忌引など)が付与されます。
- 造幣局では、職員が1年間に16日以上有給休暇を取得できるよう、休暇取得の取組みが推進されています。

◆残業

- 作業状況に応じて、2時間程度の計画残業が実施される場合があります。

配属、転勤

- 造幣局採用後、まず本局の研修施設において約2か月間、造幣局職員としての必要な知識を身につけるための新規採用職員研修を受け、その後、各職場に配属となります。配属に際しては、本人の能力や適性、業務上の要請などを総合的に勘案して行います。
- 配属先においては、所属の先輩職員が専属の指導員として付き添いますので、安心して業務を行うことができます。
- 転勤については、頻度は低いですが、本支局間の人事交流や技能習得等を目的にした転勤があり得ます。

採用関係情報②

福利厚生

◆健康管理

- 健康診断を定期的実施し、また、そのフォローアップも行っています。

◆共済制度

- 造幣局採用と同時に財務省共済組合の組合員となります。共済組合員は、病気、負傷、出産等に関して給付を行う短期給付や退職後に年金として支給される長期給付を受けることができます。また、臨時に必要な支出に対する生活資金等の貸付制度もあります。

サークル活動（本局）

- 健康と明朗さを保ち、職員相互の親睦を図るため各種スポーツや文化・趣味をテーマに、様々なサークルが活動しています。各種大会にも参加して優秀な成績を収めています。

◆スポーツ

- 野球、バレーボール、テニス、卓球、弓道など

◆文化、趣味

- 吹奏楽、茶道、書道など

ワーク・ライフ・バランス

- 超過勤務の縮減や休暇の取得促進など、ワーク・ライフ・バランスを積極的に推進し、働きやすい職場環境の整備に努めています。

【年次有給休暇の取得率】令和7年実績

88.5%（取得日数：17.7日）

- 出産・育児休業に係る休暇制度も整えており、男女ともに、仕事と育児を両立して活躍している職員が多くいます。

【育児休業取得率】令和7年度実績

男性 80%

女性 100%

職員インタビュー

- ① 事業部装金課（仕上作業）
- ② 事業部装金課（七宝作業）
- ③ 事業部装金極印課（金型製造）
- ④ 貨幣部施設課（設備保守）
- ⑤ 貨幣部貨幣製鍊課（貴金属貨幣製造）
- ⑥ 貨幣部貨幣課（圧穿作業）
- ⑦ さいたま支局貨幣課（プルーフ貨幣製造）
- ⑧ さいたま支局事業調整課（品位証明）
- ⑨ 広島支局貨幣第一課（圧延作業）
- ⑩ 広島支局溶解課（溶解作業）



①事業部装金課（仕上作業）

・造幣局を志望した理由

もともと「ものづくり」に興味があり、手に職をつけて仕事をしたいと思っていました。さらに、高校で学んでいた金属工芸に関する仕事がしたいと思っていたところ、造幣局では勲章や金属工芸品の製造を行っていることを知り、ぜひ働きたいと思いました。

・職場の雰囲気

以前は先輩の作業を見て覚えるというようなこともありましたが、現在は「技能伝承」という課題に対して、作業マニュアルのデジタル化（動画）に取り組むなどやりがいのある職場で、ベテランから若手まで気兼ねなく話せる環境が整ってます。また女性の職員も活躍しています。

・造幣局の魅力

貨幣の製造技術とともに、精巧な技術と細心の注意を払って製造する勲章や金属工芸品の美しさは世界に誇れると思っています。造幣局が誇る貨幣や勲章等の製造技術を駆使し、色々なことに挑戦することで新たな可能性を生み出すことができますと考えています。

・現在の業務内容

勲章や金属工芸品の仕上工程を行う職場で、機械では加工できない細かな模様を糸鋸やヤスリを使って細工したり、金属同士をつなぎ合わせてそれぞれの部品を作り、研磨や金属の表面処理を施して部品同士を組み立てて製品にする作業をしています。

・今までで印象に残った業務

主に勲章製造に携わってきましたが、作業の難易度に関わらず、これまでに携わった全ての製品が印象に残っています。その中でも、自らが提案した改善が実作業に組み込まれた製品には特に強い思い入れがあります。



②事業部装金課（七宝作業）

・造幣局を志望した理由

幼い頃から好きな、「ものづくり」に関わる仕事がしたかったことが大きな理由です。そして、造幣局の精巧な貨幣製造技術、勲章や金属工芸品の美しさに惹かれ、興味を持ち、携わりたいと思い志望しました。

・職場の雰囲気

造幣局には、堅いイメージがあったのですが、とても温かい職場です。先輩方は優しいので分からないことを質問しやすく、また、係・課を越えて気さくに話しかけてくださる方も多く、楽しく働いています。

・学生へのメッセージ

資料で調べて得る情報と共に、実際に見て聞いて感じる事が大切だと思います。是非一度、造幣局の見学や説明会にお越しください。

・現在の業務内容

装金課七宝係では、主に勲章の製造を行っています。成形した金属に釉薬を持いて着色をする係です。金属の大きさ・種類は様々で、小さなものとルーペを用いて作業するため大変な部分もありますが、やりがいも大きく、私も力になれるよう日々勉強中です。

・今後の目標

まずは製品1つひとつを迅速に正確に製造できるようになりたいです。知識・技術をしっかり身につけ、後輩に伝えられるような職員になればと思います。



③事業部装金極印課（金型製造）

・造幣局を志望した理由

就職か進学かを検討していた際、家族や知人から造幣局の話聞いたことをきっかけに、貨幣の製造をはじめ、勲章や褒章などを通じて、日本の信用を根幹から支え、文化を支える重要な役割を担っている機関であることを知り、強い魅力を感じこのような公共性の高い業務に携わり、社会に貢献できる仕事がしたいと考え、志望しました。

・職場の雰囲気

私の職場には、10代から60代までの幅広い年代の職員が在籍しています。業務時間中は技術的な話を真面目にし、休憩時間にはそれぞれの趣味の話で盛り上がるなど、和気あいあいとした雰囲気ある良い職場です。

・造幣局の魅力

社会に直接貢献していることを実感できる点にあると思います。2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会の入賞メダルの製作にも携わらせていただきましたが、このような貴重な仕事を経験できるのも、造幣局に勤務しているからこそであり、大きな誇りも感じています。

・現在の業務内容

装金極印課では、貨幣や勲章、品位証明印用の金型のほか、ブックマークなど、多種多様な製品を製造しています。私は機械加工によって模様を施した貨幣や勲章等の金型に対する手仕上げ作業を行っており、顕微鏡を用いて自作の工具で仕上げ、繊細な模様をさらに鮮明にする作業を行っています。

・今までで印象に残った業務

10円貨幣の表面（平等院鳳凰堂）の金型仕上作業です。数ある工程の中でも最も難しい作業の一つと言われており、「これができるこそ一人前だ」と諸先輩方から聞いていました。その工程を任せてもらったことで、「自分もやっとここまで来た」と実感し、とても感慨深い思いを抱いたことを覚えています。



④貨幣部施設課（設備保守）

・造幣局を志望した理由

高卒で働きたいと思っていた時に、高校の先輩が造幣局で働いていたのがきっかけです。どんな仕事をしたいか決まっていなかったときに先輩からの造幣局の話聞き、技能職として貨幣の製造に関われる仕事ができるのは今しかないと感じ、造幣局を志望しました。

・職場の雰囲気

とても明るく親しみやすい雰囲気の職場だと感じます。休憩時間には運動をしたり、プライベートな話もしたりする一方で、業務中は皆が真面目に仕事に取り組み、機械の修理などの時も全員で意見を出し合い考えます。オンとオフの切り替えができるとても働きやすい職場です。

・学生へのメッセージ

高卒で働いた私としては、造幣局でしか行っていない貨幣や勲章の製造に携わることで責任感が身につき、一人の人間としてとても成長できたと感じています。また、先輩方がとても優しく熱心に教えて下さるので造幣局で働いて良かったと感じています。

・現在の業務内容

施設課では、貨幣製造設備、空調設備、桜、建物の点検・保守や圧印機部品の製造、測定機器の校正検査などを行っています。私は主に圧印機部品の製作を担当しており、貨幣製造機器の部品製作に携わることで貨幣の安定供給に貢献できていることを非常に嬉しく思っています。

・今後の目標

キャッシュレス化に対して、造幣局としてこの時勢に乗る方法を常に考えており、貨幣製造に必要な機器部品を適時適切に製造し、生産効率を向上させることが目標です。また、創業時より行っている桜の通り抜けを引き続き行っていくために、桜の管理を続けることも目標です。



⑤ 貨幣部貨幣製鍊課（貴金属貨幣製造）

・造幣局を志望した理由

就職は薦職を希望していたのですが、当時の親方に社会勉強になるからと勧められ、家族も造幣局に勤務していたことから、造幣局を志望しました。

・現在の業務内容

主に貴金属貨幣の製造を行っており、材料を溶かす溶解から貨幣をケースに組み込み、販売事業課に引き渡すまでの工程を行っています。また、1円貨幣やメダルなどの円形の製造や金属工芸品のカラー印刷など、幅広い製造作業を行っています。

・職場の雰囲気

若手職員を中心に「常にチャレンジする」をモットーに、職場では声を掛け合うなど活気があり、局内のレクリエーション大会などに積極的に参加し、和気あいあいとした楽しい雰囲気です。また、創意工夫・業務改善活動にも積極的に取り組んでいます。

・今までで印象に残った業務

地方自治法施行60周年記念銀貨（47都道府県の貨幣）の製造です。この貨幣は、平成20年から平成28年にかけて製造したもので、溶解から検査までの全ての工程に携わりました。打初め式と呼ばれるイベントでは、毎回、機械が正常に作動するかドキドキしたのが印象に残っています。

・造幣局の魅力

貨幣、勲章、貴金属工芸品等の幅広い製造業務がある中、ひとりひとりが仕事に対する責任感と誇りを持ち、それぞれ達成感を感じながらモノづくりができることが魅力だと思います。



⑥ 貨幣部貨幣課（圧穿作業）

・造幣局を志望した理由

就職するにあたり何か身近にある物を製造したいと希望し、貨幣を製造している造幣局が目にとまりました。当初は貨幣のみを製造していると思っていたのですが、その他にもメダル・勲章等様々な製品を製造していると知り、ここしかないと感じて造幣局を志望しました。

・現在の業務内容

貨幣課成形係では、貨幣に模様が付く前のもの（円形）を製造しており、その中で私は圧延板（貨幣と同じ厚さの金属の板）から円形を打ち抜く圧穿工程を担当しています。円形製造に使用する様々な機械のオペレーティングや機械の点検・整備が主な業務です。

・職場の雰囲気

とてもアットホームな職場で、様々なことを相談しやすいと感じています。仕事に関しては、扱い方を誤れば危険を伴う機械が多く、気を引き締めて取り組んでいます。そういう意味ではメリハリのある職場であり、また、20代・30代の若手職員が多く、活気のある職場です。

・今後の目標

電子マネー等の普及によって貨幣を取り巻く状況は変化していますが、今後も造幣局の使命を果たすべく、国民の信頼を損なわないように高品質の貨幣を引き続き製造していきたいです。

・学生へのメッセージ

学生のうちに色々なことを経験することも大切ですが、社会人になってからでも新たな経験・挑戦をする機会が多いです。迷うことがあれば、今の自分がやりたいことをやってみてはどうでしょうか。



⑦さいたま支局貨幣課（プルーフ貨幣製造）

・造幣局を志望した理由

民間企業で働いていたのですが、消費税の導入により貨幣の製造量が大幅に増えた平成元年度に造幣局が職員を募集していることを知り、貨幣の製造に興味を持ち、転職を決めました。

・現在の業務内容

検査係では主に、成形圧印工程から送られてきたプルーフ貨幣を、パッド印刷、両面検査、貨幣組込、セット組立、梱包、発行、発送と多岐にわたり、プルーフ貨幣セット製造の最終工程として、お客様に喜ばれる製品をお届けできるよう、業務を行っています。

・職場の雰囲気

非常勤職員も含め男女、若手からベテランまで幅広い年齢層の職員が在籍しています。和気あいあいとても良い雰囲気で仕事ができています。

・今までで印象に残った業務

日本で初めてのカラーコインである「第5回アジア冬季競技大会記念千円銀貨幣」の製造です。カラーコインの彩色にはパッド印刷という方法を用いていますが、パッド印刷設備の設置から準備、製造と試行錯誤しながら大変な作業であり、とても印象に残っています。

・造幣局の魅力

キャッシュレス化が進む中においても、貨幣は必ず皆さんが手にするものであり、長い歴史と伝統のある組織において、世界に誇れる偽造防止技術を搭載した貨幣の製造に携われることが誇りです。他には勲章や貴金属工芸品製造、貴金属品位証明など色んな仕事があり魅力です。



⑧さいたま支局事業調整課（品位証明）

・造幣局を志望した理由

高校時代は工業高校でさまざまなことを学び、モノづくりに関する仕事に就きたいと考えていました。当時の進路指導担当の先生に造幣局から求人票が来ていることを聞き、調べていく中で、貨幣製造や勲章製造などのモノづくりに興味を持ち、志望しました。

・現在の業務内容

試験検定係では、貴金属製品の製造又は販売事業者の方々からの依頼に応じて、貴金属製品の品位試験を行い、合格品には、証明記号（ホールマーク）を打刻しています。現在は、金やプラチナの分析、レーザーや専用の金型を使用したホールマークの打刻作業を担当しています。

・職場の雰囲気

風通しが良く、先輩方とのコミュニケーションが取りやすい職場です。作業内容でわからないことや、失敗してしまったことなどを相談しやすい雰囲気なので、ミスを恐れず、いろいろなことに挑戦できる環境だと思います。

・今後の目標

入局2年目から2年間本局（大阪）に転勤し、貴金属の分析技術を学ぶ機会をいただきました。生活環境も変わり、苦労もありましたが、とても良い経験でした。今後は、学んだ技術・経験を活かし、将来、試験検定係の中心的な役割を担える職員になることが今の目標です。

・学生へのメッセージ

就職活動を行っていく中で、上手いかないことや、悩むこともあると思います。それでも頑張った先には、社会人として立派に働いている自分の姿を想像し、全力で頑張ってください！私たちは皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています！



⑨広島支局貨幣第一課（圧延作業）

・造幣局を志望した理由

高校時代に知り合った造幣局の方に声をかけて頂いたのがきっかけでした。当初は警察官を志望していましたが、造幣局員も同じ国家公務員であり、そして何より、日本の流通貨幣の製造に携わりたいと思うようになり、造幣局を志望しました。

・職場の雰囲気

入局前はかなり堅苦しい場所だと思込んでいましたが、入局してみると、上下関係に囚われず皆で冗談が言える明るく元気な職場でした。しかし、引き締める時はしっかり真剣に取り組む職場でもあり、メリハリのあふれる職場だと感じています。

・造幣局の魅力

誰もが必ず手にし、日常生活に不可欠な貨幣を造幣局が唯一製造していること、その中で広島支局が唯一、貨幣の材料となる金属の塊から圧延版を製造する工程を有していること、また、造幣局の150年の歴史で培われた伝統と知識に基づいて働ける点が魅力であり誇りです。

・現在の業務内容

貨幣第一課では、溶解した金属の塊を貨幣の厚さまで延ばして1枚の金属の板（圧延板）にする作業を行っています。以前は、正確な厚さを確認する最終仕上げの工程に携わり、現在は、圧延板を製造する際の不要個所の切断 及び コイル状に成型する工程に携わっています。

・今までで印象に残った業務

平成12年に500円貨幣が改铸され、材質が白銅からニッケル黄銅に変わりましたが、それまでニッケル黄銅貨幣の製造を行ったことがなかったため、製造機械やシステム等の設備をニッケル黄銅貨幣の製造に対応させる必要があり、とても大変でした。



⑩広島支局溶解課（溶解作業）

・造幣局を志望した理由

私は高校時代からモノを作ることが好きで、家族から勧められ、職場見学会に参加しました。そこで職員の方々のモノづくりへの真剣さ、貨幣という社会経済の基盤となる重要なものを作るという充実感や達成感についての話を聞き、私も造幣局で仕事をしたいと思い志望しました。

・職場の雰囲気

貨幣製造の初工程ということもあり、良い緊張感を持って作業を行っています。また、上司や先輩方からしっかりとサポートしていただけるので、新規採用の方でも安心して働ける職場でもあります。作業員同士で互いに意見を交わし、チームプレイで日々働いています。

・学生へのメッセージ

学生でいる間に自分が将来、何をを目指しているのか。また、どんな社会人になりたいのかというビジョン、目標をつくっておいてください。目標が決まると、自分の進むべき道も見えてきて、今後の学業や仕事、生活等にやる気、活力が生まれてきます。

・現在の業務内容

溶解課では、溶解炉で金属を溶かし、鑄造装置という機械で貨幣の材料となる金属の塊（鑄塊）を作る作業を行っています。溶解炉や溶かす金属が高熱であり、機械も重厚であることから、大きな事故が起こらぬよう、指差確認や複数人で点検を行うなど、安全作業を心がけています。

・今後の目標

安全第一で確実に作業を進めることが現在の目標です。そのために、作業内容を予め把握し、使用する機械等の知識や理解を深め、作業上の危険箇所を日頃から考えるよう心掛けています。また、不明な点は積極的に調べ、資格取得等により自身のスキルアップに努めています。



造幣局の組織理念

使命

高度な技術をもって次の事業を確実に実施するとともに、貨幣に対する国民の信頼を維持するために必要な情報を提供し、通貨制度の安定及び国民生活の向上に寄与する。

- ◆ 純正画一で偽造されない貨幣を、合理的な価格で安定的かつ確実に供給すること
- ◆ 国の文化を象徴する記念貨幣及び技術やデザインを工夫した収集用貨幣セットを販売し、国内外の多様なニーズに応えること
- ◆ 練達した技術により、国家・社会への功績を称えるに相応しい重厚で品格のある勲章や褒章を製造するとともに、精巧で美しい金属工芸品を製造して国民に魅力的な製品を提供すること
- ◆ 高度で確実な技術により、公的主体として品位証明及び精製・分析のサービスを行うこと

組織としてめざす姿

- ◆ **たゆまぬ進化**
歴史と伝統を大切にしつつ、常に技能・知識の向上に励み、時代の変化に応じて職員自ら考え行動し、絶えず進化し続ける
- ◆ **価値の創造**
国内外の多様なニーズに応じて、最新の技術を活用して魅力的な製品・サービスを提供する
- ◆ **環境保全**
環境にやさしく、資源・材料を無駄にせず、将来にわたって持続可能な社会の実現に貢献する
- ◆ **地域貢献**
地域の発展に貢献し、地域から信頼され親しみを持たれる存在になる
- ◆ **みんなが主役**
職員一人一人の多様性を尊重する、明るく風通しの良い、安全安心な職場環境で、誇りとやりがいを目指す

行動指針

信頼と挑戦



【本局（大阪）】総務部人事課（☎ 06-6351-5158）
【さいたま支局】総務課人事担当（☎ 048-645-5893）
【広島支局】総務課人事担当（☎ 082-922-2093）



造幣局
ホームページ



Facebook



YouTube
(@japanmint)



Instagram
(@japanmint_official)



X
(@JapanMint_IAA)